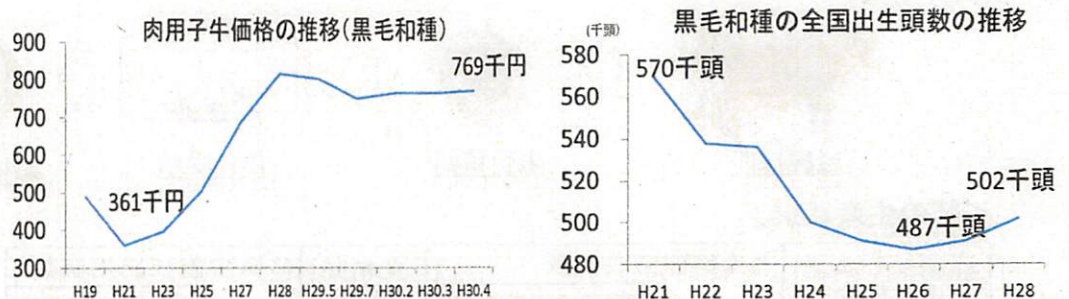


キャトル・ステーション事業の進捗状況等について

1. 目的

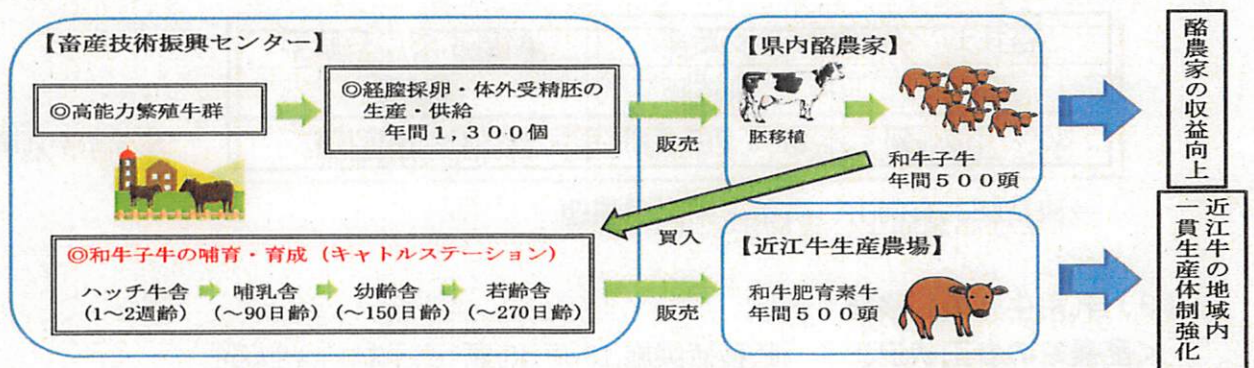
近江牛は、肥育素牛の多くを県外から購入しており、子牛価格の高騰が続く中、安定確保に向けた地域内一貫生産体制の強化を図る必要があることから、畜産技術振興センター（以下「畜技センター」）が担う従来の繁殖雌牛供給機能に加え、乳用牛への和牛胚移植の推進により和牛子牛の生産頭数の増大とともに、酪農家の収益性向上を図る。

<全国の状況>



⇒黒毛和種の出生頭数が増加に転じたものの、和牛子牛価格は依然として高値で推移しており、県内での和牛子牛の安定確保を図ることが必要。

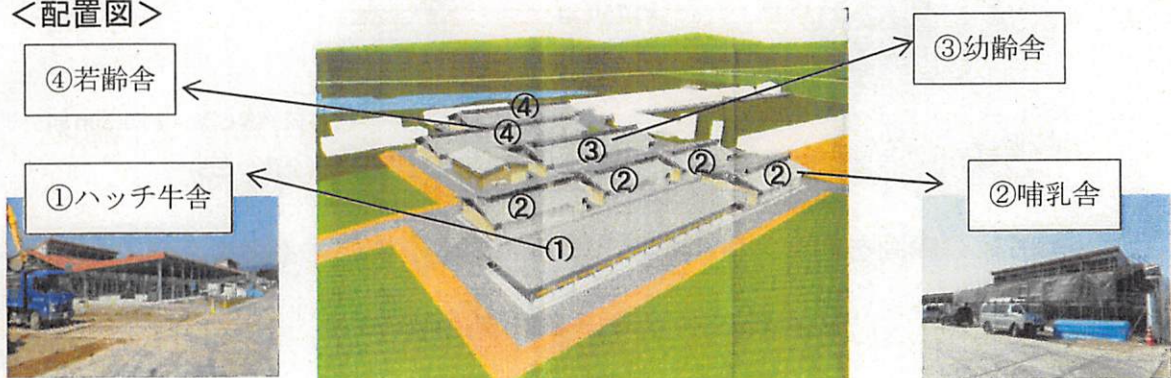
<仕組み>



2. 事業進捗状況

(1) キャトル・ステーションの整備

<配置図>

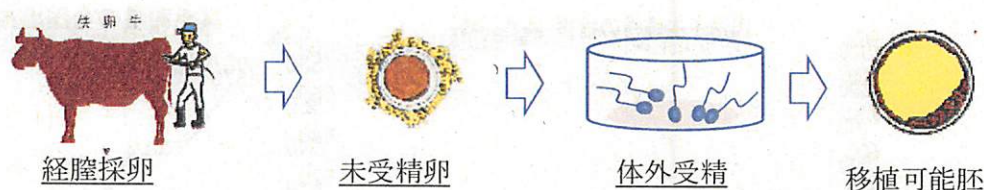


＜施設整備スケジュール＞

	H28年度												H29年度												H30年度																															
	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月																						
施設整備	← 造成測量・設計・造成工事 →																																																							
	← 基本設計 →												← 〇開札 (8/17) →																																											
	← 実施設計 →												入札公告												〇契約の承認 (9月議会) (10/6)																															
	← 地質調査 →												〇契約・着工																																											
													←												★供用開始 (若齢牛舎以外)																															
													←												★供用開始 (若齢牛舎)																															
																									←-----→												(設備設置: 哺乳ロボット、自動給餌器、飼料タンク)																			

(2) 体外受精胚の生産

＜胚生産の流れ＞



＜胚の生産状況＞

経膈採卵実施 延べ頭数	未受精卵回収個数		受精胚 個数	移植可能胚発生個数		移植・保存個数		
		1頭あたり※目標12個			発生率※目標35%	新鮮	凍結	
300	3,780	12.6	2,970	480	16%	387	77	310

⇒引き続き技術力の安定向上を図る

＜胚の受胎状況＞

畜技センター内での受胎率		酪農家での受胎率
新鮮胚	凍結胚	新鮮胚
30% (移植30個)	27% (移植22個)	27.3% (移植48個)

※受胎率目標 40%

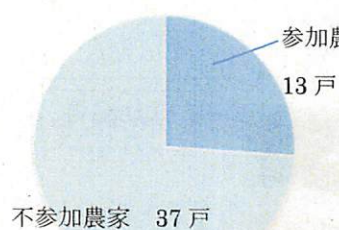
⇒凍結胚品質向上、受胎率向上が課題

(3) 乳用牛への胚移植

＜酪農家の参画状況＞

胚移植実施 13 戸 48 頭 ※平成 30 年 4 月末現在

参画農家数 (対象: 50 戸)



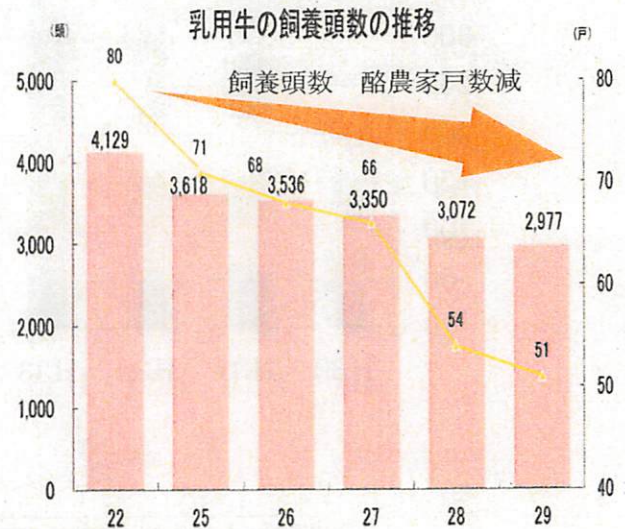
移植見込み頭数 (対象: 経産牛計 約 2,250 頭)



⇒酪農家の参画を促し、移植対象となる乳用牛を増頭する必要がある。

胚移植が進まない背景

- ・乳用初妊牛の価格高騰により後継牛生産を優先、和牛胚移植の取組意欲の低下
- ・酪農生産基盤の弱体化による、移植対象となる乳用牛飼養頭数の減少
- ・新たな取組に対する様子見、経費負担の増加への懸念 等



3. 課題への対応

(1) 胚移植対象となる乳用牛の増頭

①酪農家の理解醸成

農家巡回等による事業説明や、交配計画等飼養管理指導の継続

②酪農の生産基盤強化

後継牛確保や飼養環境改善等による生産性向上に対する支援

③経費負担の軽減

国の畜産・酪農生産力強化対策事業（補助率1/2）の活用や、体外受精胚の供給価格見直し等により、和牛受精胚や性別別精液の活用に係る経費負担の軽減。

(2) 受胎率の向上

①家畜人工授精師の技術力向上

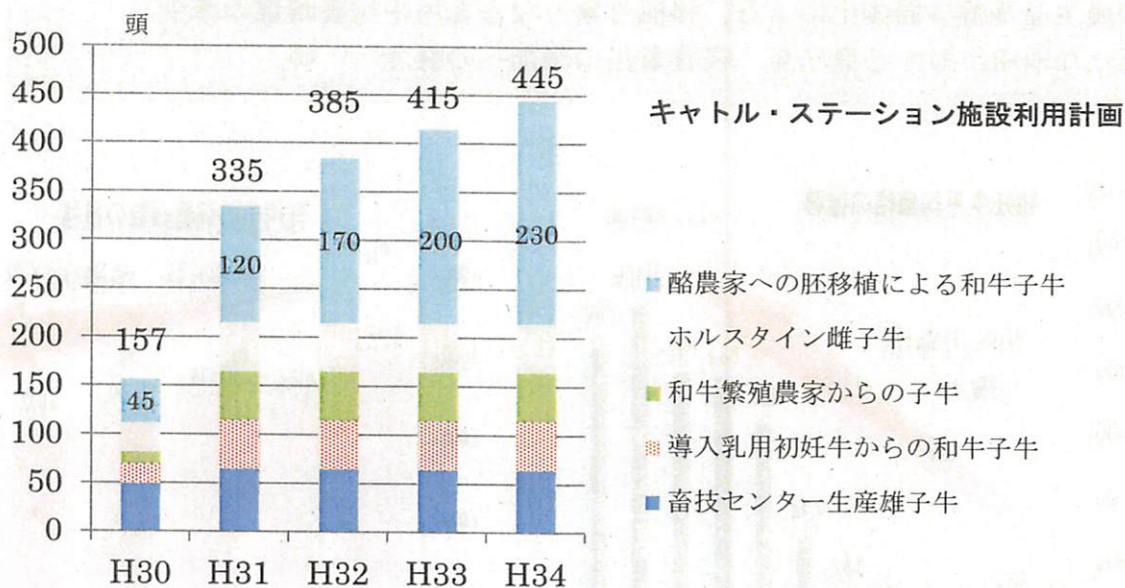
経験の浅い家畜人工授精師に対する研修の実施

②体外受精胚の品質向上

優良な移植可能胚の発生率向上および凍結胚の品質向上を図るため、畜技センターで試験研究を継続して実施するとともに、国等の研修会参加などにより、技術力の向上に取り組む

4. 今後の運用見込み

- ・酪農生産基盤強化、胚移植候補牛確保の観点から、酪農家からの要望の強いホルスタイン雌子牛の受入れ。
- ・和牛繁殖牛や導入乳用初妊牛の産子など、畜技センターの体外受精胚以外で生産された和牛子牛の受入れ。



県内での和牛子牛生産拡大へ向け施設の活用を図る

5. 期待される事業効果

- ・持続可能な生産体制の構築により、肉牛農家の増頭意欲が高まり、近江牛の飼養頭数および出荷頭数が増加
- ・和牛子牛の県内生産頭数の増加に伴い、肉牛農家における肥育素牛の安定確保、購入経費の低減などによる肉牛振興
- ・酪農家における和牛子牛の生産・販売に伴う収入増加による酪農振興
- ・地域内一貫生産体制の強化による高品質で安全・安心な近江牛のブランド力向上および消費者への安定供給
- ・産地と品質を結びつけた近江牛のブランド力を活かし、観光部局との連携による地域の活性化